2015年度春学期授業アンケート総評

教育・研究推進センター所長　余田義彦

2015 年度も前年度に引き続き、全科目対象で授業アンケートを実施した。アンケート項目を変えていないため、前年度と比較することで改善状況を確認できる。全学での集計結果については、次のような変化が見られた。若干の補足とコメントとともに記しておく。

1. 実施率・回答率

実施率は 3.3%下がったが、回答率は微増した。実施率が下がった原因は、音楽学科でカリキュラム改訂が行われて個人レッスン科目が大幅に増えたことと関係している。それらの科目ではアンケートで匿名性が確保できないので、実施を見送る科目が増えたからである。音楽学科と教・研センター主任会で対応を検討することになっている。

2. 質問項目ごとの評点平均値

授業理解度、意欲、知的好奇心、時間外学習時間、話し方、授業の工夫、シラバスとの合致、教員の配慮、授業レベルなど全ての項目で微増した。これらは各学科で行われてきた授業改善の取り組みの賜であると考えている。懸案である時間外学習時間も0.65h/w→0.69h/w と増加しているが、アクティブラーニングの授業実践や授業支援システム「マナビー」の活用によって今後さらに伸びることを期待したい。

3. DWCLA10 選択率

プレゼンテーション力は微減したが、その他の分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力などは微増した。DWCLA10 はディプロマポリシーの内容を具体的に表現したものとされているが、リーダーシップの選択率は 2.8%と低い。どのような方法で涵養していけばよいか、教育の質保証の問題として授業だけに限らず教育活動全般に目を向けて各学部学科で考えていただきたい。